

## 8. 国際業務、海外勤務、海外留学

社会・経済がグローバル化する中、安心・安全な国民生活の実現のためには、国際的な協調の下で政策課題に取り組むことが不可欠です。厚生労働省においても国際的な見地からの対応を求められることも多く、以下では、数理職員が国際業務で活躍する部署を紹介します。

### 〔国際業務 >>> 大臣官房国際課〕

厚生労働省の国際業務は、大臣官房国際課が中心となり、保健医療・労働・社会保障等の分野の国際的課題に積極的に対応しています。主な施策として①国際機関への参加・協力、②「人づくり」を通じた国際社会への貢献、③対外経済問題への対応などがあります。

### 〔海外勤務 >>> 在外公館（大使館等）〕

厚生労働省職員としての経験を積んだ後、厚生労働分野のアタッシュ（担当官）として、在外公館（大使館等）で勤務する機会もあります。省を代表して相手国政府と交渉することも多く、時には大臣クラスと議論することもあり、ハードではありますが、やりがいを感じる仕事です。

### 〔海外留学 >>> 大学院等〕

国際化する諸課題に対応するために国際的な行政官を育成することを目的とした「行政官在外研究員制度（長期・短期）」があります。この制度を活用し、海外の大学院で必要な分野の研究に携わった後、その成果を活かして国際業務で活躍する数理職員も多くいます。



### <国際業務で活躍する数理職員（官野千尋（平成20年入省））>

現在、私は国際課の国際経済機関係という部署におり、OECD（経済協力機構）への対応等を行っています。OECDは、経済協力・経済成長などを目的に先進国によって組織され活動しています。仕事の内容は、会合準備と報告書のデータ提供です。

まず会合準備について、OECDの会合では、厚生労働省に関係した社会保障、保健、労働分野における問題が議論されており、議論に必要な、日本の制度の状況や統計データをOECD事務局に提供し、また、日本側の発言内容を省の担当部局と調整しながら検討します。そして、大きな会合では大臣をはじめとした出席者を立て、航空券や宿の手配などを含め全体のスケジュール調整を行います。そして、会合で議論されたことについて取りまとめ省内にフィードバックします。

次に報告書については、OECDが定期的出版している報告書のデータリバイスをするのが中心で、データの分野別に担当部署にデータ提供依頼を行い、入手したデータを取りまとめるという作業になります。どちらにせよ厚生労働省の所管を広く把握している必要があり、英語力も必要です。

印象に残っていることは、各国の社会保障給付データベースを作成するプロジェクトで、日本の社会保障給付一覧を作成するのに苦労したことです。厚生労働省だけでなく他省に対しても、社会保障給付統計をどのような方法で作成しているかを調査し、OECDの示す分類に当てはめるという作業をしました。その作業をとおして、国際的に比較する統計では、まず各国のデータはどのように取得されたものなのか、比較できるデータなのかを意識することが重要であると感じました。

OECDの特徴としては、他の多くの国際機関とは異なり、多数決による結論（基準、条約）を得るのではなく、自由な意見・情報交換を行うことにより、国際的な共通認識を醸成し、各国政策の調和を図ることを目的としています。その伝統的な手法として、ピアレビュー・ピアラーニングがあり、各国がお互いの国の経験を共有しあうことで良い取り組みなどを学習することができます。さらに制度、統計を国際的に比較することで問題点を浮かび上げらせ解決に取り組むことができます。

